



S・A・I

String Approach Information

つなぎあわせる 近づく 情報



つながりをチカラに



作品名 「ドイツの夜」 作者 相田 大希さん（鴻巣市在住）

この作品はドイツに住む友人から貰ったクリスマスマーケットの写真を見て描いたものだ。
その写真はあまり鮮明ではないのだが、彼の絵は街ゆく人々の様子やお店の中までもが細かく書き込まれている。建物の色も写真とは異なるオリジナルな色で塗られている。
寒い夜にぱっと明かりが灯った感じや、クリスマスで楽しそうな人々の雰囲気が生きてると伝わり、見ているとあたたかい気持ちになれる。

巻頭インタビュー

支えあい、誰もが“ここにいていい”と
感じられる社会を目指して

～ 精神保健福祉士が目指す未来 ～

公益社団法人日本精神保健福祉士協会会長

田村 綾子 さん



全体のレビューは
こちら



埼玉県障害者アート
オンライン美術館

支えあい、誰もがここにいていいと

感じられる社会を目指して

精神保健福祉士が目指す未来

精神保健福祉士として長年、精神科病院に長期入院する患者の社会復帰や地域に暮らす精神障害者の支援に尽力している田村綾子さん。精神保健福祉士の専門職団体・日本精神保健福祉士協会の会長として、精神障害者の権利擁護やメンタルヘルスの課題に真摯に向き合い、共生社会の実現を目指しています。今回は、メンタルヘルスの課題に直面している現代社会において、精神保健福祉士が目指す未来について伺いました。

精神保健福祉に関わるきっかけを教えてください。

大学の実習で精神科病院に行きました。作業療法やレクリエーション療法が活発な病院で、カラオケやソフトボールをしたり、革細工を作ったり、患者さんとの交流がすごく楽しかったのです。患者さんとはとても素朴で、本音で話せる空気は私にとって心地良いものでした。

そんな中、「症状は改善しているのに、なぜ患者さんは長く入院しているのだろう」という疑問がわき、カルテを見ると家族との関係が絶たれている方もいて、この方たちの退院後の生活を支えたい、社会復帰のお手伝いがしたいと、就職先は精神科病院を選びました。

就職したのは実習先とは別の病院でしたが、ソー

シャルワークに理解のある病院だったため、地域へ出て、社協や民生委員・児童委員さんと一緒に精神障害者の地域生活の支援にも力を入れました。

病院を退職した後は、日本精神保健福祉士協会で特命理事として生涯研修制度を構築し、2011年からは聖学院大学で学生の教育をしています。

精神保健福祉士は主にどのようなところで働いているのでしょうか。

精神保健福祉士の4分の1くらいは精神科のある医療機関で働いています。その他にも、障害福祉サービス事業所、自治体、教育委員会、司法分野など活躍する場所は本当に幅広いです。

企業においては、社員のメンタルヘルス支援や障害者雇用の合理的配慮の調整役としても活躍し

公益社団法人日本精神保健福祉士協会会長
学校法人聖学院理事長・聖学院大学心理福祉学部教授

たむら あやこ
田村 綾子さん

神奈川県横浜市出身。大学3年次に国立久里浜病院で実習し精神保健福祉士を志す。医療法人丹沢病院（医療相談室）に精神保健福祉士として16年間勤務。日本精神保健福祉士協会理事・研修センター長等を歴任し、2020年より会長。2011年聖学院大学着任（心理福祉学部教授、学部長・研究科長、副学長などを歴任）。厚生労働省「精神保健医療福祉の今後の施策推進に関する検討会」構成員、「自殺総合対策の推進に関する有識者会議」委員、文部科学省「いじめ防止対策協議会」委員などを務める。
主著に、「精神保健福祉士の実践知に学ぶソーシャルワーク・シリーズ」1～4巻（編著）「図解でわかる対人援助職のための精神疾患とケア」（共著）いずれも中央法規出版 ほか



ています。最近では企業を顧客として開業する精神保健福祉士も出てきています。

精神保健福祉士を取り巻く環境や社会から期待される役割について教えてください。

資格ができてまもなく27年になりますが、社会の変化とともにメンタル不調者が増え、自殺対策やいじめ、不登校、引きこもりへの対応など、精神保健福祉士に期待される役割は拡大しています。

特に、高齢者の分野では、認知症や高齢期のうつ病といった精神科領域の疾患が増えています。また、若い頃から精神疾患のある高齢者への対応の難しさや、家族からの過度な拒否や依存といった関わり方が難しいケースでは、精神医学や心理学の知識をもつことから、精神保健福祉士が必要とされています。

日本精神保健福祉士協会はどのようなビジョンを掲げて活動しているのでしょうか。

協会の活動は大きく三つの柱があります。

一つ目は人材育成です。精神保健福祉士は資格を取っただけでは現場の即戦力になれるとは限りません。精神保健福祉士はさまざまな場所で働き、業務の幅も広いいため、職場で担えない研修を協会が補っていく必要があるのです。

二つ目は政策提言です。精神障害者が地域で安心して暮らせる社会をつくるためには、法律や制度の壁を取り除く必要があります。協会は全国に1万2千人の会員がいますが、現場の声を集めて国に働きかけ、社会を変えていく「ソーシャルアクション」を行っています。

協会は61年前、精神障害者は福祉の対象外で国



家資格もない時代に、精神科病院で働くソーシャルワーカーたちが「患者の人権を守る」「社会復帰を支援する」ために集まったことから始まりました。制度や社会を変えることは、私たちの活動の原点なのです。

精神科病院は、隔離や拘束、強制的に入院させることができる病院なので、その中で人権を守っていくことは社会全体の問題であり、政策提言として特に重視したいところです。

三つ目は組織強化です。全国の精神保健福祉士が参加し、研修を受け、政策提言を行っていく、その仕組みを支える組織づくりを行っています。

協会として、今後どのような活動を目指しているのでしょうか。

まずは「知ってもらうこと」が大事だと思っています。精神保健福祉士はまだ認知度が低いので、困ったときに「相談できる存在」としてもつ

と広く知られるよう普及啓発を進めたいと考えています。

また、「コミュニティづくり」にも力を入れていきます。今は、人々がメンタル不調を感じやすくなっています。自分のメンタルの状態に気づきやすくなったという良い面もありますが、こども・若者の自殺者は減っていません。理由は、自分の居場所や現状に不安が大きいからではないかと思っています。

誰もが早期にメンタルの不調を相談でき、「ここにいていい」「自分のことを気にかけてくれる人がいる」と感じることができれば、精神疾患や自殺を予防することができると思います。そんな社会を目指したいのです。

最後に読者へのメッセージをお願いします。

協会が目指しているのは、誰も排除しない社会です。かつてのように、精神疾患のある方が地域から隔離された時代を繰り返してはいけなさと考えています。高齢になれば、誰もが認知症になる可能性があるように、メンタルの不調は誰にでも起こり得ます。一人一人が「明日は我が身」と捉え、特別視しすぎず、同じ街で暮らす人同士として心を寄せていただきたいです。

困っている人は、なかなか「助けて」と言えません。はじめは心のドアを開いてくれないかもしれませんが、あきらめずに声を掛け続けてください。話を聞いてもらうだけで心が整理され、救われることがあります。

自分一人で抱えてしまっていて、どうしたらいいかわからなくなったら、精神保健福祉士を頼ってください。「支えあい、誰もがここにいていい」と感じられる社会を一緒に作っていきましょう。

さまざまな団体の
キラリとした活動を紹介

福祉と医療の専門職が連携して こどもたちの成長をサポート

社会福祉法人 財団 恩賜 済生会支部 埼玉県済生会川口乳児院（川口市）

病院併設の強みを生かして、福祉と医療の専門職が連携しながら、一人一人のこどもの成長を支えている川口乳児院。日常的に医療的ケアが必要なこどもも受け入れています。

乳児院とは何らかの事情で保護者の養育を受けられない乳幼児を養育する施設です。対象は0歳から概ね6歳までで、入所理由は経済的困難、家族の精神疾患、虐待などさまざまです。

週1回往診するほか、保育士だけでなく、看護師も24時間365日配置され、日常的に医療的ケアが必要なこどもをサポートしています。

川口乳児院は昭和54年に、済生会川口総合病院併設の福祉事業の一部門として開設されました。定員は30人で13人のクラスが2組と、医療的ケア児4人のクラスを設けています。乳児院は県内に8カ所ありますが、病院併設の施設はほかにありません。

「病院併設の強みを活かし、福祉と医療の切れ目ないサービスを提供できることが当院の大きな特徴です」と、八木橋克美施設長は話します。母体の病院の小児科医が

週1回往診するほか、保育士だけでなく、看護師も24時間365日配置され、日常的に医療的ケアが必要なこどもをサポートしています。さらに理学療法士、作業療法士などのリハビリ専門職が定期的に訪問し、専門的なアプローチを行っています。例えば嚥下障害のために口から食べることができないこどもに対しては、言語聴覚士が口腔機能をチェックし、日常的にケアする保育士に実践的なアドバイスをを行うとともに、看護師や保育士、管理栄養士などとチームを組んで、口から食べることができるようリハビリに取り組んでいます。

このように福祉と医療の専門職の連携によって、こどもにとっても職員にとっても安心できる環境が整っています。

「あなたは大切な存在だよ」とこどもに伝えるための取り組み

一人一人のこどもに寄り添う個別ケアの実践も川口乳児院の特徴です。

「担当制」を導入し、こどもと担当職員のふたりで遊んだり外出する時間も設けたりして、信頼できる大人との関係づくりに努めてきました。

また、虐待などの過酷な体験をしたこどもも少なくない中で、職員の皆さんは、こどもたちに対して「あなたが大好きだよ」「大切な存在だよ」ということが伝わるように、かける言葉一つ一つにも心配りをしているといいます。



保育士、看護師、個別対応職員、心理士、家庭支援専門相談員などが連携してきめ細かなケアを実施

そういった職員の思いを形にしたものが、一人一人のこどもたちの日常を撮影した写真を集めて作成したアルバムです。職員の温かいメッセージが添えてあり、退所時に渡しています。「幼くて記憶が残らない時期であっても、自分はここで愛され、大切にされていた」と感じてもらう証となり、そのことが、人生を支えるものとなるようにという思いで、作成しています」と八木橋施設長。

開設して46年が経ち、令和8年度には新築移転することが決まっています。4〜6人の少人数のグループに再編し、より家庭的な環境のなかでの養育となるため、その準備に施設全体で取り組んでいます。

福祉の魅力・やりがい
言葉にすると？

福祉への
想いを聞きました！



社会福祉法人 恩賜 済生会支部
埼玉県済生会川口乳児院
施設長
やぎはし かつみ
八木橋 克美 さん

Q この言葉を選んだ理由を
教えてください。



私は乳児院に来る前、済生会川口総合病院で医療ソーシャルワーカーとして生活困窮の方や、課題を抱えているご家族の相談支援に当たっていました。なかには親子の関係がねじれたり、居場所を失ってホームレスになったり、罪を犯してしまうといったケースも担当しました。

このように大切な人との絆、社会との絆がねじれたり切れたりしてしまったり、人が関わってサポートすることによって、絆を結び直すことができます。私はソーシャルワークの体験を通してそのことを確信しました。

乳児院に来てからも、絆がねじれてしまった親子と数多く出会いました。その背景には孤立した状況で子育てをしていて、支援の手が差し伸べられない状況もあると思います。

しかし乳児院では、専門職が地域の関係機関や里親など、多くの方々の力を借りながら、こどもたちを支える絆づくりを注いでいます。

人と人がつながり、絆を育み合うことの大切さや、絆のネットワークが広がることの可能性を実感してきました。そこで福祉のやりがいとして「絆」という言葉を選びました。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償！！

令和7年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
こちらから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も左記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉
保険会社

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

不登校について考える (その1) ～ 不登校のこども・家庭の支えに～

埼玉県教育局市町村支援部生徒指導課

近年、不登校の増加傾向は顕著であり、令和5年度の文部科学省調査では不登校児童生徒は過去最多となっています。児童生徒にとっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直すための時間として積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益、社会的自立へのリスクが存在します。このことを踏まえ、児童生徒の支援に取り組む必要があります。

1 県内の不登校の状況

令和5年度の県内公立小中学校の不登校児童生徒数は、小学校5,958人、中学校1万833人の合計1万6,791人です。また、在籍する児童生徒千人あたりで、小学校は16.9人、中学校は61.7人であり、中学校は各クラスに2人程度の不登校生徒がいる状況となっています。

2 不登校の要因

国の調査では、不登校児童生徒について学校側が把握した事実として、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」の回答が最も多くなっています。学校では、なぜやる気が出ないのかなど個々の状況を丁寧に把握した上で支援していますが、不登校となった児童生徒本人も「わからない」と回答する場合もあり、要因の把握は非常に難しい課題であると認識しています。

3 県の取組

令和6年3月に「一人一人の社会的自立に向けた児童生徒支援ガイドブック」を作成しました。ガイドブックは、児童生徒の状態と必要な対応を関連付けた実践的な内容となっています。学校外の専門的な相談・支援との連携も記載しており、校内研修などで活用することで、学校の相談・支援力の向上を図っています。

また、県ではホームページ「不登校の子供たちとその保護者を支援するためのサイト」を開設しています。支援団体の情報や不登校経験者の体験談などを掲載し、保護者を中心に支援しています。



◀ 総合的な
不登校対策
(ガイドブック等)



◀ 不登校の子供たちと
その保護者を支援
するためのサイト

4 学校と地域の連携

不登校児童生徒の保護者の皆さんも不安になる中、支援については地域の方々と連携し、しっかりと家庭を支えながら実施していくことが重要です。不登校が急増する中、児童生徒の学びを保証するため学校と地域が一丸となって支援に取り組んでいきましょう。

2月号では、戸田市で行っている「戸田型オルタナティブ・プラン」について紹介します。※1月号の福祉を考えるはお休みです。

介護のことなら何でもお気軽に
ご相談ください!

福祉用具のレンタル・販売 / 住宅改修

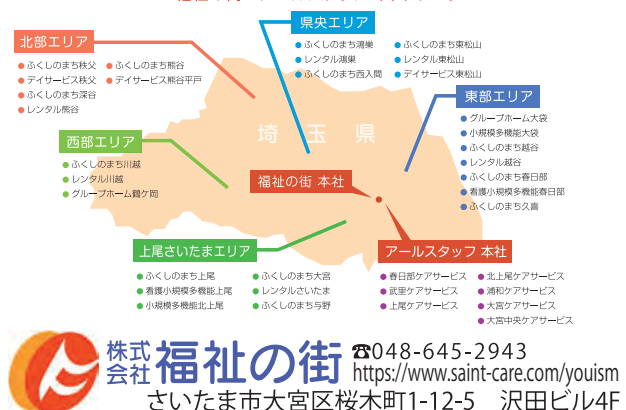
Silver
HOXON シルバーホクソン

通話無料 ロゴ ヨロシク
0120-65-4649 川口市中青木 2-22-34

無料カタログ
お送りします



福祉の街・アールスタッフ ネットワーク





外国人介護人材の受入れを支援！

県社協では、今年度より埼玉県から外国人介護人材雇用促進事業を受託し、県内の介護事業所への外国人介護人材の受入れを促進することを目的に会議や研修会、調査などさまざまな事業を行っています。

1 相談窓口の開設

介護の人材不足が深刻化する中、外国人介護人材の採用を考える介護事業所に対し、採用方法や採用に係るコスト、採用する外国人介護人材への配慮事項など、アドバイザーが各種相談を受け付けています。

相談日時 毎週火曜日（祝日・年末年始を除く）13：00～16：00

相談方法 対面相談（彩の国すこやかプラザ内）・オンライン相談・電話相談

お問い合わせフォーム <https://ws.formzu.net/dist/S936371511/>



2 外国人介護人材の受入れに係る調査の実施

県内の介護事業所を対象に、在留資格が特定技能の外国人介護人材の受入れの状況や受入れ事業所の種別等について調査を行いました。

その結果、外国人介護人材を受け入れている・受け入れる予定があると回答した介護事業所が全体の8割となっており、介護の現場を支える貴重な人材として定着していることがわかりました。

3 外国人介護人材雇用推進セミナーの開催

介護事業所の経営者・管理者を対象に一層の雇用促進が図られるよう、外国人介護人材の受入れの現状・課題や受入れに際しての配慮事項や環境整備、メンタルサポートの必要性について講義を行いました。

また、既に県内の介護事業所で就労している外国人介護職員を対象に介護現場での利用者・職員とのコミュニケーションの向上を図るための研修を実施し、参加者同士で学びを深め合うことで外国人介護職員のモチベーションアップに寄与しました。



県内介護事業所で働く外国人介護職員向け研修の様子

今後も県内の介護人材不足に対応するため、外国人介護人材の一層の受入れ促進に努めていきます。



◀外国人介護人材雇用相談窓口について

外国人材支援課 TEL 048-826-5334

ケアマネジャーを目指して研修受講試験に717人が合格！

10月12日（日）に「令和7年度埼玉県介護支援専門員実務研修受講試験」を実施し、今年度は2,403人が受験しました。

介護支援専門員は、ケアマネジャーとも呼ばれ、要介護者などからの相談に応じ、利用者が適切なサービスを受けられるように支援する専門職です。

今年度の埼玉県の合格率は29.8%でした。合格者はこの後実務研修を受講し、修了することで介護支援専門員の資格が得られます。

ケアマネジャー業務課 TEL 048-824-3111

5,000点を超える福祉に関する図書、DVDを貸出し！

福祉情報センターでは、福祉関連の専門書、雑誌、マンガ、DVDなど5,120点を所蔵しています。図書、DVDは福祉関係の専門職や従事者、一般の方まで自由に閲覧でき、貸出ができます。ぜひ、ご利用ください。

開館時間 火～日曜日 9:00～17:00

休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合は、その翌日）

毎月第1日曜日、年末年始(12/29～1/3)

場 所 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65

彩の国すこやかプラザ1階

JR与野駅西口から徒歩約10分

貸出数 1人10点以内（15日間まで）

対象 埼玉県内在住、在勤の方

- 貸出利用が初めての方は「図書利用カード」を発行しますので、住所・氏名の確認できるもの（免許証・学生証・マイナンバーカード等）をお持ちください。
- 郵送による貸出、返却（送料本人負担）も行っています。
- 埼玉県内の公立図書館（一部、対象外あり）を通して返却することもできます。

DVDの一例

- ・全国共通 初心者のための介護入門
- ・～介護する側もされる側も安全安心に～
らくらく自宅で介護『起居動作編』、『食事編』
- ・ドキュメンタリー映画
認知症と生きる 希望の処方箋
- ・グリーフケアの時代に～あなたはひとりじゃない～
- ・ヤングケアラーへの理解と支援のために
- ・みんな笑顔になる日まで
（ヤングケアラー、若年性認知症を描いた作品）
- ・映画 こども食堂にて



他にも高齢者向けの体操、福祉教育、災害などさまざまなDVDがあります。

職場内の研修などでご活用ください。

詳細は図書貸出のページをご確認ください。

福祉情報センター TEL 048-831-4123

赤い羽根だより

ありがとうございますの声が届いています

皆さまからご協力いただいた募金は、県内の福祉団体が実施する福祉活動や、施設に必要な備品の購入などの助成金として活用しています。共同募金の助成を受けた団体からの“ありがとうメッセージ”を紹介します。

社会福祉法人栄光会

特別養護老人ホームロイヤルの園（所沢市）

介護浴槽購入

皆さまからの貴重なご寄付を助成いただいたことで、念願の特殊浴槽を購入することができました。最新のミスト浴槽によりご利用者様は気持ちよく入浴していただけることと思います。

ご寄付いただきました皆さまの心温まるお気持ちに感謝申し上げ、大切に使用させていただきます。誠にありがとうございました。



社会福祉法人秩父福祉会

デイサービスセンター さんさん（秩父市）

送迎用福祉車両購入

新車をいただいたことにより、ご利用者様から「きれいな車両に乗れてとても嬉しい」などの声が聞かれました。職員から「運転しやすくなった」との声もあり、業務への意気込みもますます高まりました。

この度は、皆さま方からのご寄付により、素晴らしい送迎車をいただきまして心より感謝申し上げます。皆さまからいただきましたこの宝物を、大切に末長く使用いたします。



共同募金会では、動画のありがとうメッセージを作成し、YouTubeで公開しています。是非こちらもご覧ください。



社会福祉法人埼玉県共同募金会 年間を通して助成要望を受け付けています。

〒330-0075 さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ内

TEL 048-822-4045 FAX 048-824-9819 赤い羽根さいたま

ネット募金
受け付け中!

